

こども

子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

ひつじかいの

しょうねん

少年、ダビデ



ぶん
文: Edward Hughes

え
絵: Lazarus
Alastair Paterson

かいさくしゃ
改作者: Ruth Klassen

ほんやくしゃ
翻訳者: Yuko Kajiki
監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ
出版社: Bible for Children
www.M1914.org

©2021 Bible for Children, Inc.

きよか たにん う かぎ はなし また
許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、
きよか
許可されています。



ずっとむかし、まだサウルがイスラエルの王さまだったときのお話です。ダビ
デという名の男の子がいました。ダビデは、7人のお兄さんを手伝ってお父さ
んのヒツジやウシの世話をしていました。かれは、いちばん末っ子ですがけれど、
とてもつよく、勇気のある少年でした。それに、いつも神さまを愛しこころか
ら信じていました。その子は、

ベツレヘムをいう町にすん
でいましたよ。



いちど、こんなことがありました。ライオンがヒツジのむれをおそって、小さな
子ヒツジをつかまえてしまいました。ライオンは、きっとヒツジを自分の晩ごは
んにするつもりだったのでしょ。そのときダビデは、

子どもだったのですが、ライオンにおそいかかり

ました。そして、ライオンの口からそのヒツジ
をうばいかえしたのです。次に、うなっている
ライオンのヒゲをつかんで殺してしまいまし

た。そのときダビデは、思いました。きっと神
さまがいっしょにいて、

自分を助けて
くださったの

だって。



かみ

しゃ

かな

そのころ、神さまのよげん者サムエルは、まだサウルのこと、悲しくてたまりません。なぜなら、サウルは、すっかり神さまからはなれてしまったのですから。「いったい、いつまでサウルのこと、でなげくつもりなのか。」

かみ

い

神さまは、こう言ってサムエルをしかったです。「サムエル、わたしはあなたをエッサイのところにつかわそう……。それは、わたしがエッサイのむすこの1人を次の王としてかんがえているからだ。」

ひとり

つぎ

おう



じつはね、エッサイという人は、ダビデのお父さんでした。サムエルは、神さま
の言われることにしたが、もうひとりの王さまをさがしに行くことにしまし

た。でも、もしサウル王がそのことを知ったら、たいへんなこと
ですね。サムエルをころすかもしれません。けれども、
よげん者サムエルは、神さまにしがいました。





まち
サムエルがエッサイのいる町についてと
じぶん
き、エッサイは自分の7人のむすこたちに
まえ ある
サムエルの前を歩かせました。ところが、
み い
サムエルはかれらを見て言いました。

しゅ
「エッサイ、主がえらばれたのは、このむ
すこたちじゃありません。」このとき、ダ
ビデだけここにいませんでした。ダビデ
は、ちょうどヒツジのせわをしていたから
にい
です。そこで兄さんたちは、ダビデをへや
なか しゅ
の中につれてきましたよ。すると、主がす
た
ぐにサムエルにこたえられました。「立ち
あぶら
なさい。そしてかれに油をそそぎなさい。
ひと しゅ
まさに、この人こそ主がえらばれたもので
ある。」

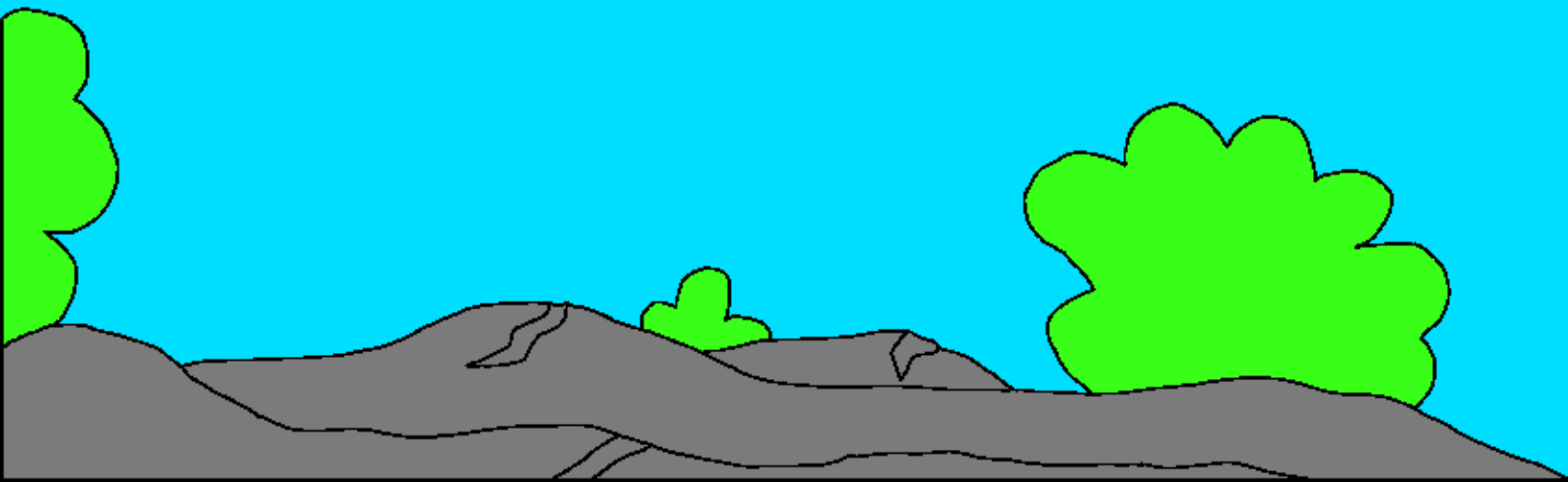


さて、そのころサウルのおしるは、いったいどうなっていたでしょう。じつは、
主の霊しゅ れいがサウルからすっからはなれてしまい、かれの心には安らぎやすやよろこびが
ありません。 サウルつかのめし使おもいたちは、こう思いました。

もし、サウルがうつくしい音楽おんがく きを聞いたな
ら、かれの心はおちつきこころ、やさしくなる
かもしれないと。めし使つかいの1人が、
ハープをととてもじょうずにひく
わかい男おとこ ひと しの人を知っていま
した。みなさん、その人ひとは
だれかわかりますか。
そうなのです。その人ひとは
ダビデですよ。



とう
ダビデがお父さんのうちへ へ かえってからのことです。サウルとペリシテ人との
おお
あいだに大きなたたかいはじまりました。ダビデの兄さんたちは、サウルの軍
はい じん
たいに入り、ペリシテ人とたたかいましたよ。エッサイは先とうに立ってたた
せん た
かっているむすこたちが心配です。「ダビデ、兄さんたちに食べものをもって
しんぱい にい た
いって、どうしているか見てきておくれ。」エッサイは、こう言ってダビデを兄
み い にい
さんのところに行かせました。



あれっ！ものすごくでかいペリシテ人がいますね。かれの名まえは、ゴリアテ。
イスラエルの兵士たちをととてもこわがらせていました。



へいし

なか

ひとり

「やい、イスラエルの兵士ども！おまえたちの中から1人えらんでおれのところ

おお こえ

へつれてこい！」ゴリアテは、大きな声でさげびました。「もし、そいつがおれ

たたか

じん

と戦って、おれをころしたなら、われわれペリシテ人はおまえたち

つか

か

イスラエルに仕えよう。だが、もしおれが勝ったなら、イスラエルは、ペリシテにつかえるのだ。わかったな！」ほんとうに

おお

つよ

大きくて強そうです。

おとこ

イスラエルの男たちは、「ああ、おそろ

い

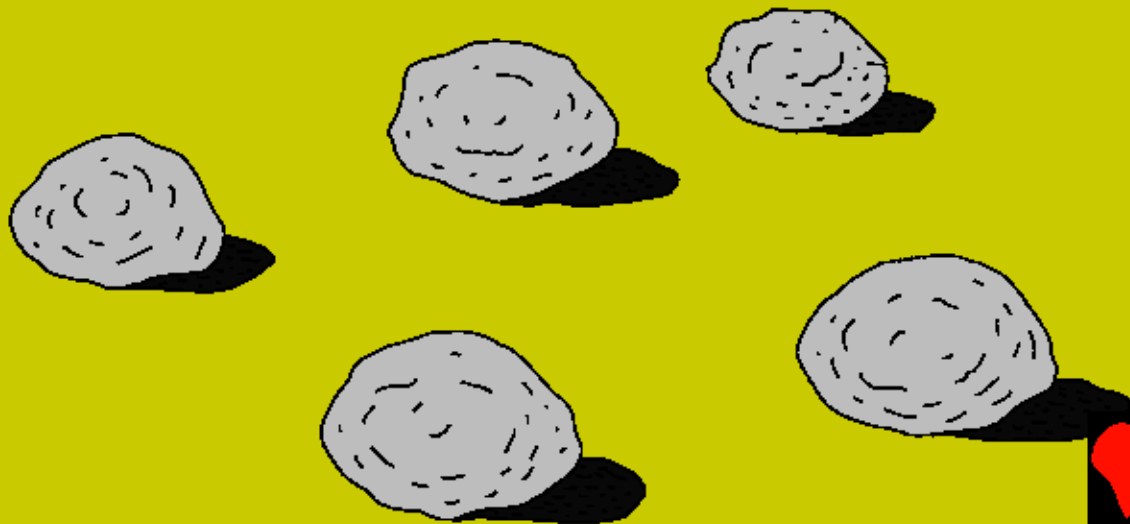
しい！」と言って、

いそ

みんな急いでにげましたよ。



ゴリアテのことを知^しったダビデは、サウルに言^いいました。「王^{おう}さま、イスラエ
ルは、ゴリアテなどこわがることはい^いないのです。あなた^めの召^めしつかいであるわ
たしが、ゴリアテの^いところへ行^いって、やっつけてまいりま^いしょう。」そこで、
サウルは、自分^{じぶん}が戦^{たたか}うときのよろ^いいや、かぶ^{かたな}と、そして刀^{かたな}をダビデにわたし
て、それら^{つか}を使う^いように言^いいました。でもね、ダビデはゴリアテとたたかうの
にサウルのかぶ^{かたな}とや、よろ^{つか}いや刀^{かたな}を使^なわなかつたのですよ。じゃ、何^なを使^{つか}った
のでしょ^う。小川^{おがわ}でひろ^いったつるつるした5つの石^{いし}と、石^{いし}なげ器^{いしき}です。それら
をも^いってゴリアテの^いところに行^いったのです。



「ハッ、ハッ、ハッ、なんてちっ小っぽけなやつだ。それに、よろいもかぶともつて
ないじゃないか。」ゴリアテはおおごえ大声でわらいました。そして「おまえのからだ

をバラバラにして、そら空をとんでとりいる鳥や、
のほら野原をウロウロしているけものたちのえ
さにしてやろう。さあ、かかってこ

いい！」と言ってどなりちらしました。
そこでダビデは、「わたし
は、しゅただな主の名により、あなたの
ところにやってきたのです。」
こたと答え、いこう言いました。

きょう「今日、しゅ主はあなたをわたしにまか任
せられ、か勝たせてくださるでしょ
う・・・このたたかいは、
しゅ主のものなのです。」



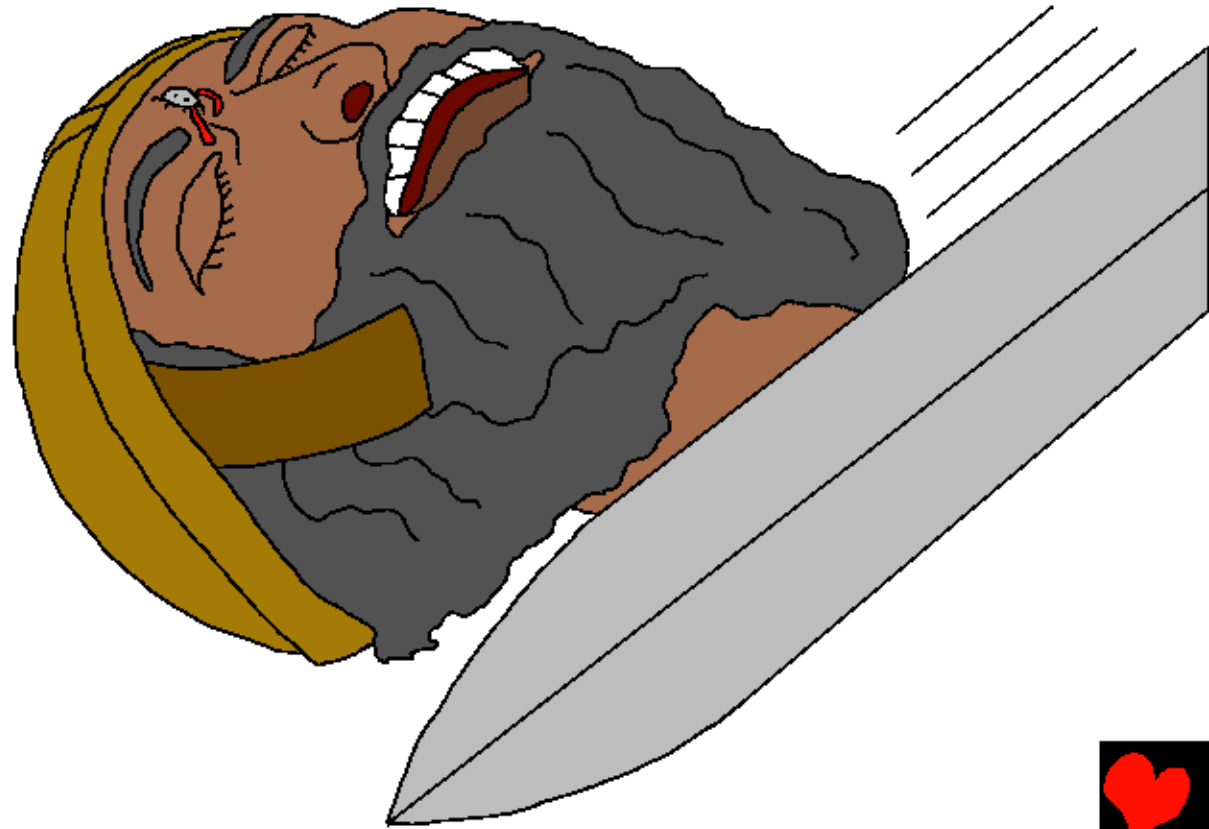
さあ、ダビデはゴリアテにむかってまっすぐに進んでいきましたよ。ダビデ
は、走りながら、石なげ器から1つの石を、ゴリアテにむかって投げつけまし
た。それは、ちょうどゴリアテのひ
たいにめい中したのです。

ドシン！ものすごい音です。

あっ、ゴリアテは地めんじ
にひっくりかえっていますよ。



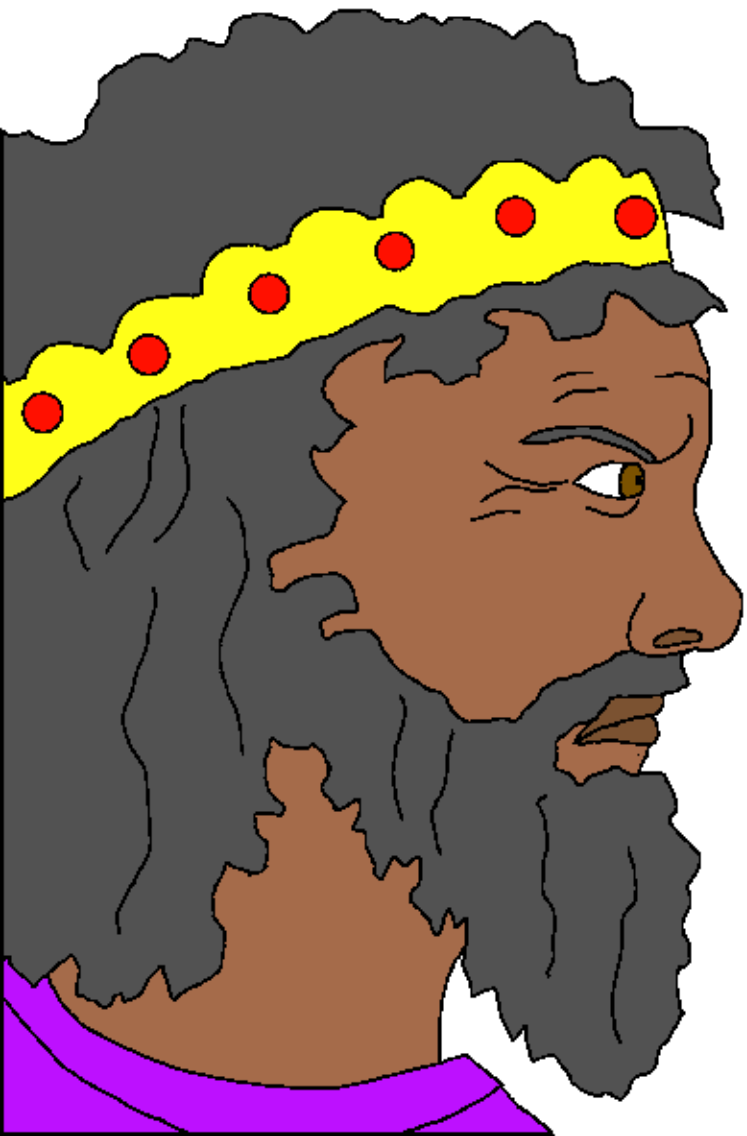
ダビデは、すぐにゴリアテの大きい大きい刀^{おお おお かたな}をとりあげ、かれのあたまを切り^き
おとしました。大きなゴリアテが死んでしまったのを見たペリシテ人、みんな^{おお し み}
びっくりです。「わあ、たすけてくれー。」と言いながら、いちもくさんに^い
にげていきました。



そのとき、サウル王は、ゴリアテをやっつけた人が、前にハーブをひいて自分を
なぐさめてくれたダビデとは、まったく気づきませんでした。あとでそのことが
わかり、きっとおどろいたことでしょうね。それから、

サウルはダビデを自分の軍たいの長として、
はたらいてもらうことにしました。ところが、

それからサウルとダビデの仲がだんだ
ん悪くなっていくのです。



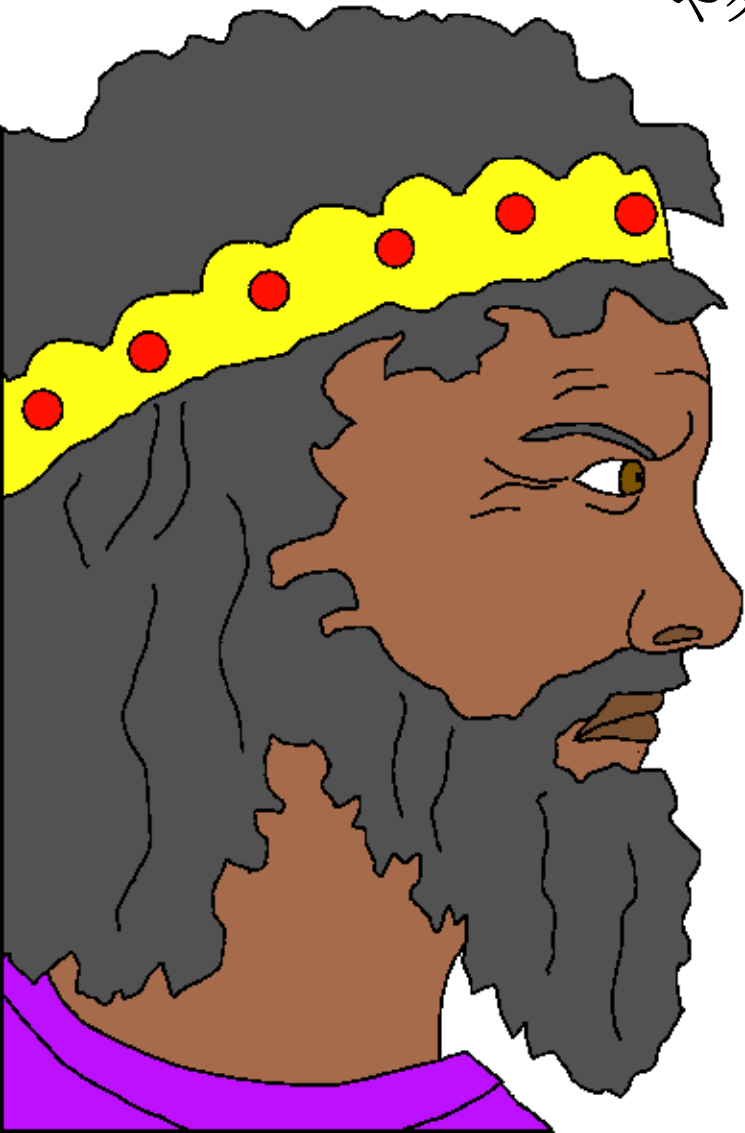
たたか か ひとびと
ダビデが戦いで勝つたびに、人々はダビデをほめたたえるようになったからで
す。サウルは、ダビデにしっとし、こう言うてにくしみはじめたのです。「いま

い
やダビデは何でももっているじゃないか。わたしの
なん

おうこく なん
王国のほかは何でも・・・」サウルは、

しん
ダビデを信じないで、いつもうたがいと

こころ み
にくしみの心をもって見つめるよう
なりました。



こころ

またしても、サウルの心にはやすらぎがなくなっていました。そこでダビ

こころ

おんがく き

デは、サウルの心をなぐさめようと、うつくしい音楽を聞かせましたよ。とこ

おと き

さんかい じぶん

ろが、「あっ、あぶない！」サウルはそのきれいな音を聞きながら、3回も自分

な ころ

のやりをダビデに投げつけ、殺そうとしたのです。

でも、そのたびにダ

ビデは、そのやり

ますますダビデがお

からうまくにげることができました。サウルは、

しゅ

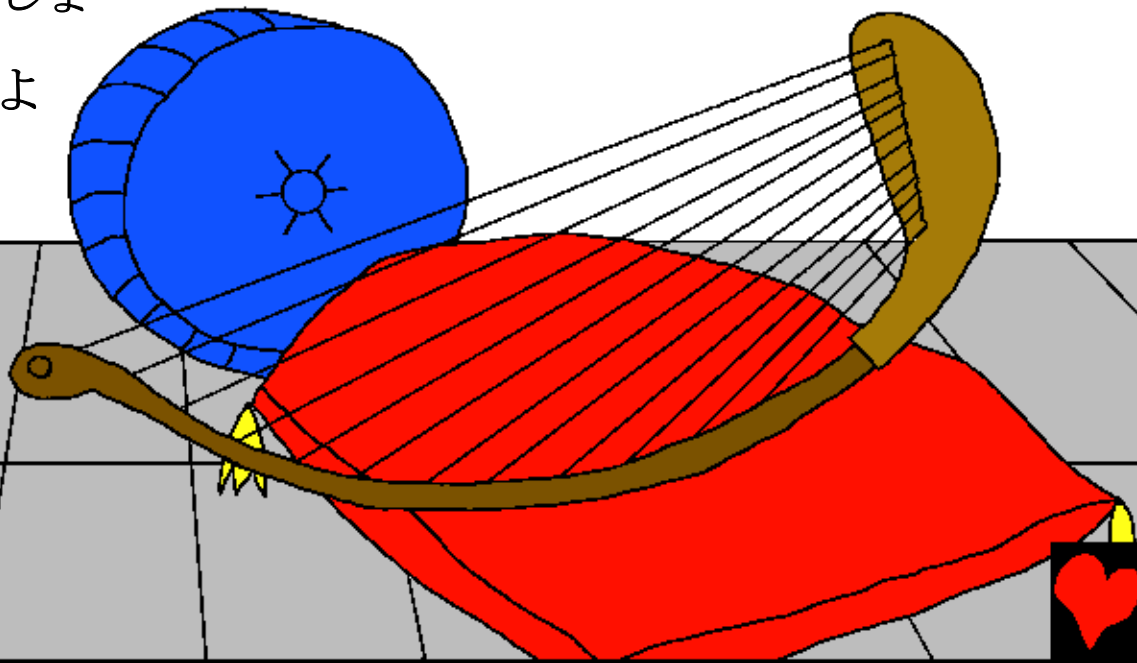
そろしくなりましたよ。どうしてって、主はサウルからは、はなれてしまったけ

れど、ダビデとは、いつもいっしょ

まも

にいて、守っていられることがよ

くわかったからです。



ところが、サウルのむすこヨナタンは、^{だいす}ダビデが大好きでまるでほんとうの兄さ
^{にい}さんのように^{おも}思っていました。あるときヨナタンは、^いダビデにこう言いました。

「^き気をつけて！^{とう}ぼくの父さんは、^{ころ}あなたを殺そうとさがしまわって
^{いそ}います。」そこで、^{いそ}ダビデは急いでにげることにしました。じつは、
^{なか}ダビデのおくさんは、^{にんぎょう}かれのベッドの中に^い人形を入れておいたの
^{よなか}です。そして、^おま夜中にダビデを^おまどから^おつり^お下ろし
^{つか}に^{つか}がしてくれました。さて、^{つか}サウルの使いがきて、
^{ころ}ダビデをつかまえて^{ころ}殺そうとしたのですが・・・。
ダビデはもうベッドに
いませんでしたよ。



ダビデはサウルからののがれて、とおいとおい ^{ところ い}所に行かなくてはなりませんでした。
た。ダビデがにげる前、かれとヨナタンは、おたがいに ^{まえ なん}何ともしっかりとやくそ
くしました。そのやくそくって ^{ふたり たす}いうのはね、「これからも2人は、いつも助け
^あ合っ ^あていこう！」というものでした。



かなしいことに、この2人はそれからすぐに「さようなら」を言わなければなりませんでした。ダビデは、これから生きていくところをさがしに出発したからです。もうサウルの兵士に見つからないところをさがしにね。



しょうねん
ひつじかいの少年、ダビデ

かみ み せいしょ する
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

きじょう しょう しょう
サムエル記上 16 章 -20 章

み ひら ひかり あた
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん
詩篇 119:130



おわり



せいしょものがたり わたし かみ
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、
おも
思っています。

かみ わたし かみ
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしゃいます。それを、神さま
は、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ
けれども、神さまは、あなたをととても愛していらっしゃいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、こ
よ おく つみ じゅうじかじょう な
の世に送って下さいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれども
それから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイエスさ
まを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イエスさま
いま ところ き なか す
は、今、あなたの所へ来て、あなたのところの中に住んで下さいます。そして、いつまでもイエスさ
まといっしょに生きることができますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなって
下さいました。そして、よみがえって、いま生きて
わたし なか き つみ わたし いま
いらっしゃいます。どうか、私のところの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あたら
しい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいること
ができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることができますよう、たすけて
ください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

